

県立がんセンター新潟病院医誌投稿規定および手引き

I < 投稿者の資格 >

本誌に投稿するものは当院職員、当院と関係の深い者、および編集委員会にて依頼または承認された者とする。

II < 原稿の種類 >

原稿は総説、原著、臨床経験、研究、症例、資料・統計、その他とし、他誌に未発表のものとする。内容は腫瘍およびその関連のあるもので、当院職員の研究、教育に寄与するものが望まれる。

III < 原稿の申込 >

- 1 原稿は別に定める申込票とともに提出する。(提出原稿にも、標題、著者名所属を明記のこと。)
- 2 所属の書き方：当院の「病院概要」中の「病院の機構」に使用されている名称を使用する。
- 3 提出の際は、コピー1部を添付する。
- 4 提出の際、原稿とフロッピーディスクの両方を提出する。
入力媒体は、2HD、1.44MBの3.5インチフロッピーディスクで、MS-DOSフォーマットしたもの。
入力書式は、1校全角20字×20行で、保存形式は、テキストファイル(XXXXXXX.TXT)とする。

IV < 原稿の様式 >

- 1 標題のページ
標題、著者名、所属、索引用語(Key word-分かりやすいもの5~6個以内)
- 2 本文
 - A) 論文の形式：要旨(400字以内で、必ず付けること) - はじめに - 対象と方法(または症例) - 結果(またはまとめ) - 考察 - おわりに - 文献 とする。但し、総説、資料・統計の体裁は自由とする。また、項目符号を使用する場合は、1...1...1) ...などを使用する。
 - B) 原稿枚数は下記を原則とする。

	本文(文献を含む)	図・表
総説	20枚以内	10枚以内
原著	30枚以内	15枚以内
症例報告	15枚以内	7枚以内
その他	20枚以内	10枚以内

研究会等の抄録は、その都度抄録募集時に編集委員会が規定する。

原稿用紙は1枚20×20字のB5判用紙を使用する。

ワープロの際も、1枚20×20字とする。

- C) 学術用語は日本医学会又は各関連学会の用語集による。
- D) 外国人名、地名、化学用語は、原則として原語を用い、一般化したものはカタカナで書く。
- E) 薬剤名は一般名を用い、商品名はなるべく用いない。
- F) 論文中しばしば繰り返す言葉は略語を用いてもよいが、初出のときは省略してはならない。
- G) 数字は算用数字を用い、単位はCGS単位を原則とする。

記号はm, cm, mm, u, mu, g, mg, l, ml, °C, pH, N, M, Ci, mCi, uCiなどを使用する。
省略点は打たない。

- 3 図・表・写真はその説明をつけず本文中に挿入希望箇所を明記する。
写真は全てプリント(手札販以上)とし、天地を記載する。原則として、カラーは受け付けない。
図は、原則として原稿のまま印刷されるため、太字で黒インキを使用する。
- 4 標題、索引用語(keyword)、図・表の表題はなるべく日本語が望ましい。

5 文献

引用文献は論文に直接関係するものとし、引用箇所の右肩に番号をつける。文献欄には、引用順に次のように列記する。

A) 雑誌

引用番号) 著者名：標題，雑誌名（略名），
 卷（号）：最初ページ－最終ページ（通しページ），年号
 (例) 1) 加藤清，赤井貞彦：胆道癌危険因子。
 新潟がんセンター病医誌，25(2)：80-83，1986。
 2) Fortman, C. S. and Witte, D. L. :Serum5'-nucleotidase inpatients receiving
 anti-epileptic drugs. Am. J. Clin. Pathol. 84(2)：197-201，1985。

* 著者名については、多数の場合は3名までの記載とする。

* 外国誌、国内誌の略名は正式略名を使用すること。

B) 単行本

引用番号) 著者名：書名。初版以外の場合はその版，引用ページ，発行所，発行地，出版年号。
 (例) 3) 佐々木壽英，赤井貞彦：新潟県の胃癌，76p. 新潟県立がんセンター新潟病院，新潟，1986。

C) 編者と著者が異なる単行本

引用番号) 著者名：標題。書名，初版以外の場合はその版，編者，引用ページ，発行所，発行地，出版年号。
 (例) 4) 小越和栄：胃潰瘍の再発率。消化性潰瘍の新しい展開，北島政樹ら編，p. p. 333-345，蟹書房，東京，1986。

D) 電子文献

引用番号) 著者名：標題。 [引用日] . URL
 (例) 5) 県立がんセンター新潟病院：放射線治療。 [引用2001-7-1]
<http://www.niigata-cc.niigata.niigata.jp/>

V <原稿の採否および審査>

- 1 投稿論文の採否は編集委員会が行う。
- 2 編集委員会は、投稿原稿について加除、訂正を求めることがある。

VI <校正>

- 1 校正は3枚までとし、著者は再校まで行う。
- 2 校正は誤植に限る。内容の加筆補正は避ける。

VII <別刷>

- 1 掲載論文（抄録類は除く）の別刷は30部まで無料。これを越えた分については、実費有料となる。
- 2 掲載済原稿は著者に返す。

VIII <刊行回数と募集時期>

- 1 刊行回数：年に2回とする。
- 2 発行時期：1月，7月とする。(原稿募集締め切り：5月末，11月末)

IX <その他>

本誌の刊行および関連事項について、必要あれば編集委員会で協議して決定する。